

アユ資源の状況について

琵琶湖湖区漁業調整委員会
令和6年(2024年)4月18日
滋賀県水産試験場

1. 魚探による資源調査

①周回調査

- 水深 30m 等深線付近の周回コースの魚探調査の結果、4月の魚群数は 21 群（平年比 15%）となった（図 2）。

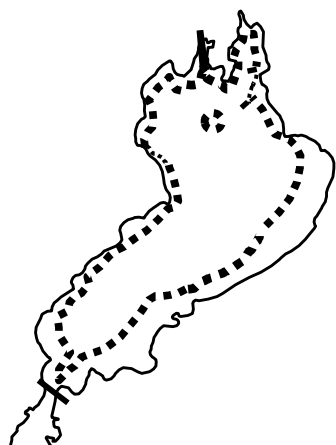


図 1. 周回魚探調査の調査線

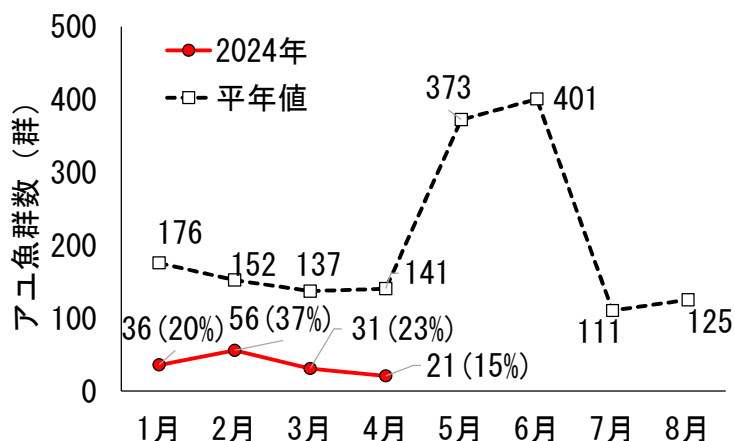


図 2. 周回魚探調査で確認された魚群数の推移

②トランセクト（北湖横断）調査

- 北湖全域を東西に横断するトランセクト魚探調査の結果、3月の推定資源尾数は 0.84 億尾（平年比 47%）となった（図 4）。4月の調査は現在実施中である。

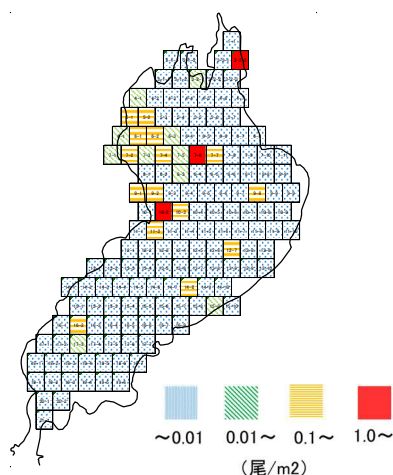


図 3. トランセクト調査密度分布 (3月)

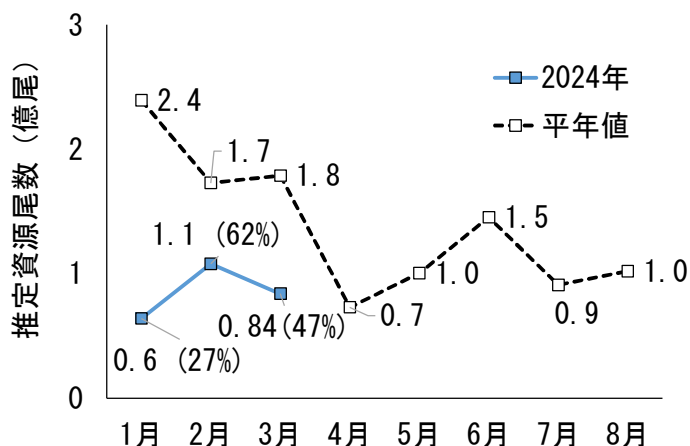


図 4. トランセクト調査による推定資源尾数の推移

2. 漁獲魚の体型

- ・4月上旬エリ漁獲魚の平均体長は46.5mmで、平年並みであった。エリ漁獲魚の体長は2月中旬までは平年値を上回っていたが、2月下旬以降は平年並みで推移している（図5）。
- ・4月上旬ヤナ漁獲魚の平均体長は78.5mmで、平年並みであった（図6）。

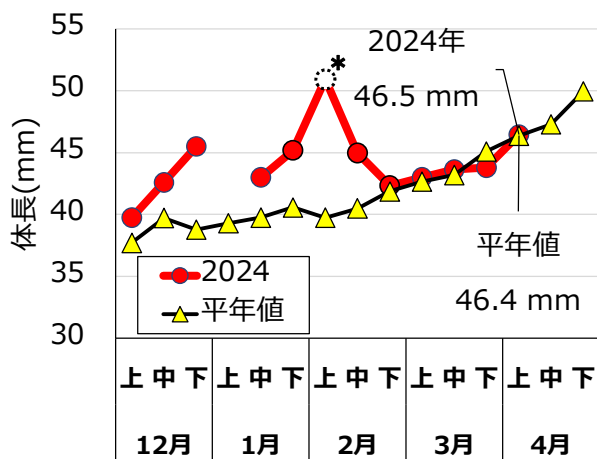


図5. エリ漁獲アユ平均体長の推移

*2月上旬は標本を収集できた地点数が少なく、かつ地点間のばらつきが大きいため参考値とする。

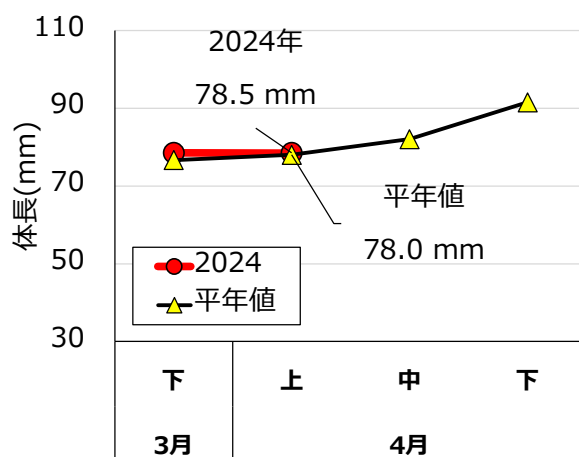


図6. ヤナ漁獲アユ平均体長の推移

3. 漁況聴き取り

漁法	概要
エリ	<ul style="list-style-type: none"> ・年明け以降1漁協あたり数百g～数kg/日の漁獲が続いていたが、3月末には一時的に十数kg～200kg/日に漁獲が増加した漁協もあった。 ・4月以降は多くの漁協で再び漁獲が減少し、1漁協あたり数kg～十数kg/日の漁獲が続いている。一方、一部の漁協では数十kg～数百kg/日の漁獲があるなど回復傾向が見られている。 ・サイズはばらつきが大きい。
ヤナ	<ul style="list-style-type: none"> ・3月中旬から一部の河川で操業開始。 ・操業当初は漁獲されない日が多かったが、3月末から漁獲が増えはじめ、数百kg獲れる日もあった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・追さで網は数kg～100kg/日と不安定。琵琶湖の水位が高いため、操業場所が限られる。

4. 今後の予定

- ・引き続き魚探による資源調査、漁獲魚の測定、漁況聴き取りを行い、資源状況の把握に努める。
- ・漁獲魚の耳石分析を行い、孵化日組成や成長の状況を調べる。